

最終報告

東海大学SAC学生ロケットプロジェクト

工学部 航空宇宙学科 航空宇宙学専攻

学部3年 松尾大葵

学部2年 中原陽

目次

1. プロジェクト体制	P.2
2. 活動計画	P.3
3. 活動報告	P.5
3.1 開発・実験	P.6
3.2 広報活動	P.7
4. 4つのアセスメント	P.8
5. 今後の展望	P.10

プロジェクト体制

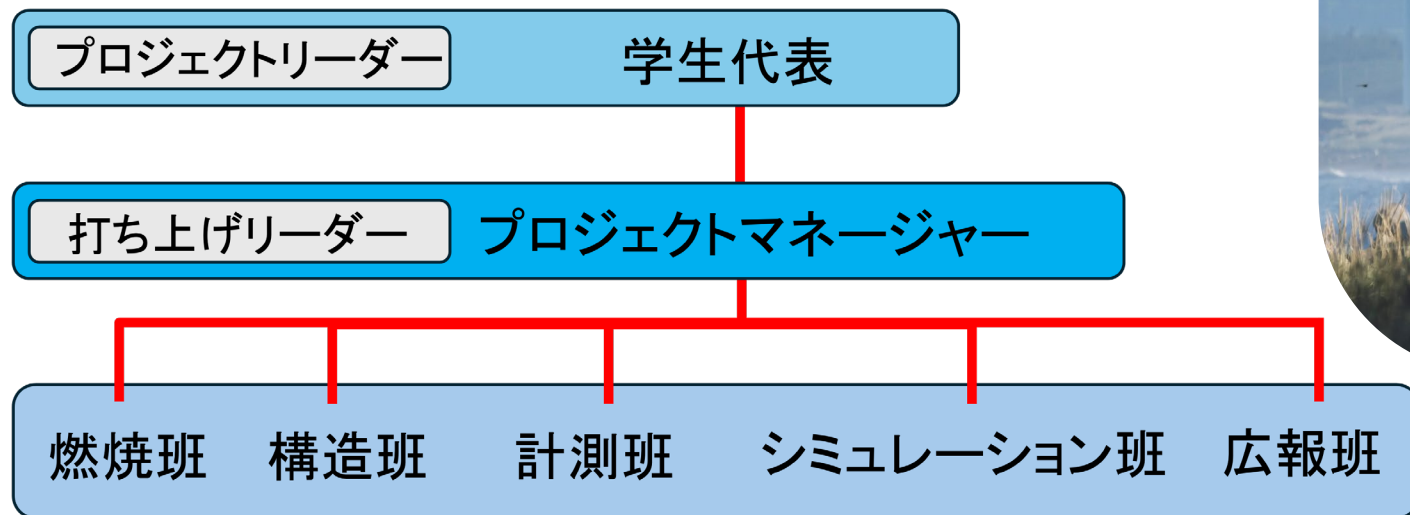
プロジェクト体制

TSRP

活動メンバー: 51名

学生が中心となって開発から製造を行い
学生自身の手でロケットを打ち上げる
東海大学の学生のみが所属する。

組織図



活動計画

活動計画 2023年度



活動報告

活動報告 3.1 開発・実験

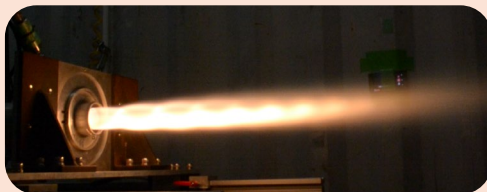
自分たちがやるべきことを明確にして自らが考え研究開発に努める。

燃焼実験

実験手順を見直したことで、実験時間の短縮化を達成。

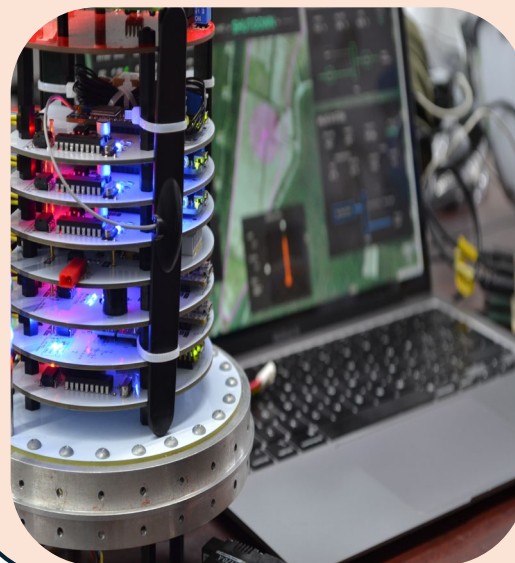
実験拘束時間

8時間→4時間



搭載計器のオープンソース化

搭載計器に関する資料を公開し
学習コンテンツ拡大に貢献しました。



活動報告 3.2 広報

広報手段の選択肢を増やし、広報活動の幅を広げ新たな道を見つける。

大樹町打上実験

多くのメディアに
取り上げていただきました



Forbes

PR TIMES

Web東奥

UchuBiz

SPACE COTAN

メディア一覧

前年度との比較

前年

1社

増加

今年

9社

協力して頂ける企業

FUJITSU

富士通セミコンダクター
メモリソリューション株式会社

HRS

ヒロセ電機株式会社

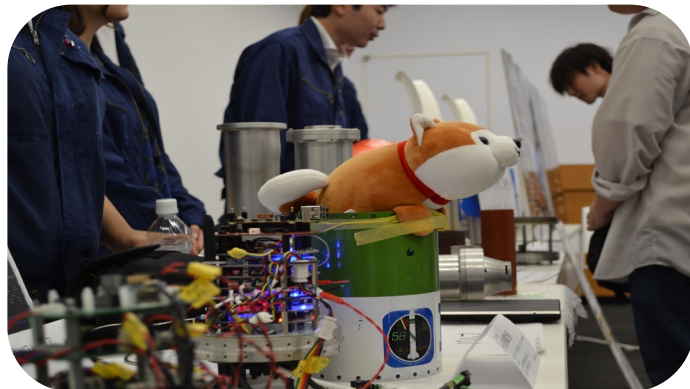
*一部抜粋

4つのアセスメント

4つのアセスメント



勉強会やロケット交流会
イベント事に積極的に参加
外部との関わりを大切にする



基礎力

自ら考える力

集い力

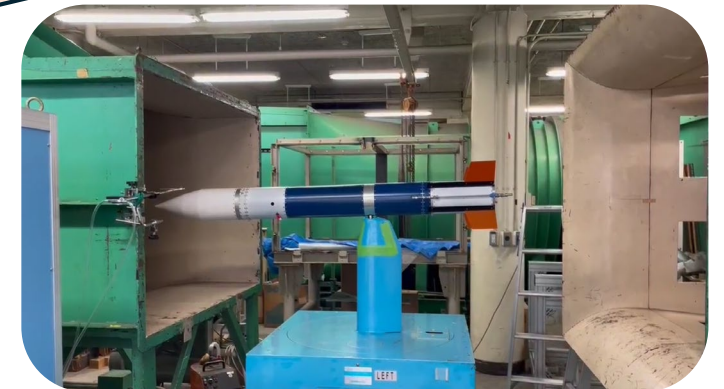
実践力

挑み力

成し遂げ力



培った知識や技術を伝える。
積極的に意見を
取り入れ能動的に活動



今後の展望

今後の展望

反省

研究開発における, 知識不足.
活動参加率の低下

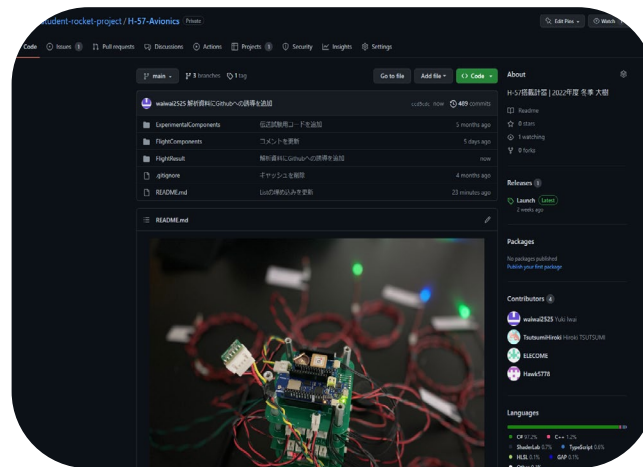
今後

企業や他団体の知見を積極的に取り入れる
下級性も発言しやすい環境づくり.

具体的に



1. 下級性にも担当を任せる



2. 文書として資料を残す



3. メリハリのある活動